

バイカモ

Ranunculus nipponicus var. major

キンポウゲ科

名前の由来

ウメに似た花の形から名付けられ、ウメバチモ(梅鉢藻)ともいわれる。岡山県ではこれを食用にするためウダゼリという方言がある。漢字名：梅花藻



バイカモ

特定種

北海道レッドデータブック…希少種 (R)

形態的特徴

茎の長さは1~2mにもなり、流れにそって下流にたなびく。葉は細かく枝分かかれし(3~4回の三出複葉で、裂片は更に2分裂する)、糸状になる。葉の基部に膜状の托葉があり、毛を散生する。花は葉の根元(葉腋)から伸びる枝につき、

白色で径1~1.4cm、5枚の花びら(花弁)と中心部に黄色の雄しべと雌しべが多数あり、ウメの花に似ている。



花の咲いたバイカモ



バイカモの花



バイカモ

類似種と見分け方

チトセバイカモ。
チトセバイカモはバイカモより小型で、葉の基部にある膜

状の托葉は、バイカモではまばらに毛が生えているのに対し、チトセバイカモでは毛がない。

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期			■									
結実期				■								

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原・樹林)
鳥類
ワシ・タカ

生育環境・分布

河川の流が緩やかなところや、水路、湧水池に生育する。

分布：日本固有種であるため国外には分布せず。

国内分布は、日本特産で北海道と本州。冷水を好むため、本州西南部では河川の上流域や湧水域にほぼ限られるが、北日本では低地の水域でも見られる。

北海道内では、道東～道央にかけて確認されているが、その他の地域については不明。

十勝地方では、河川の流が緩やかなところや、水路、湧水池で見られる。湧水のある緩やかな流れでは群落をつくっていることも多い。



バイカモ。水中に生育する

生活史

開花時期：6月中旬～8月

開花までの年数：不明

寿命：多年草。

他生物との関わり

花には虫が訪れる。バイカモのような水草が茂るところは魚や水生昆虫のよいすみかとなる。

興味深い話

■金魚屋で売られている水草のほとんどがバイカモで、そのためキンギョモの別名もある。

■山菜としてほとんど一年中利用できる。歯ざわりがよく

シャキシヤキとしていて、生でも食べられるがさつとゆでて酢の物、おすましにするとよい。



バイカモ



バイカモ

配慮事項

生育には冷水や湧水のある水域が不可欠である。

参考文献

「改訂版 牧野新日本植物図鑑」牧野富太郎 北隆館 1989

「北海道植物図譜」滝田謙讓 自費出版 2001

「日本の野生植物 草本Ⅱ」佐竹義輔・大井次三郎 他 平凡社 1982

「日本水草図鑑」角野康郎 文一総合出版 1994

「新版 北海道山菜実用図鑑」山岸喬・山岸敦子 北海道新聞社 1992

魚類

底生動物

両生虫類

トンボ

チヨウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(葎原・タカ) 鳥類